

-AMAZING GRACE-

驚くばかりの恵みをあなたに

キリスト教雑学コラム

◎十字架についてのお話

今回のテーマはキリスト教のシンボルともいうべき「十字架」についてのお話。さて、その十字架ですが、実にいるなどところで見かけますね。街を歩くとけっこう大勢の人が十字架のペンダントをしているのに出くわします。そうそう、以前、東京・渋谷でいくつもの十字架を銀のチェーンにつけてジャラジャラ音を立てながら歩いていた若者を見たことがあります。何でも当時売り出し中のミュージシャンであったとか。十字架で自分を目立たせようという魂胆だったのでしょうか。

十字架で自分の存在を目立たせると言えば、キリスト教会はもちろんのことですが、病院もそうですね。おなじみの白地に赤の十字架のマーク、いわゆる赤十字マークですね。病院を探している時など、これが見つかるとほっとしますね。この赤十字マークは、国際赤十字の創始者であるアンリ・デュナン之母国スイスの国旗に由来するとか。確かにスイス国旗は赤字に白の十字架ですから、それを反転すれば赤十字マークになりますね。これは万国共通かと思えばそうではなく、イスラムの国では「赤新月」マークとなっています。これは、例の「十字軍」のせいでイスラムの人達には十字架に対するアレルギーがあるためだとか。

少し話がわき道にそれましたが、十字架にもいろいろな形があることをご存知でしょうか。一番ポピュラーなのが「ラテン十字架」。これは縦の棒が長くて、横の棒が短いおなじみの形です。これに対して縦の棒と横の棒が同じ長さになっているのが「ギリシャ十字架」。「タウ十字架」というものもあります。ちょうどアルファベットのTの形の十字架



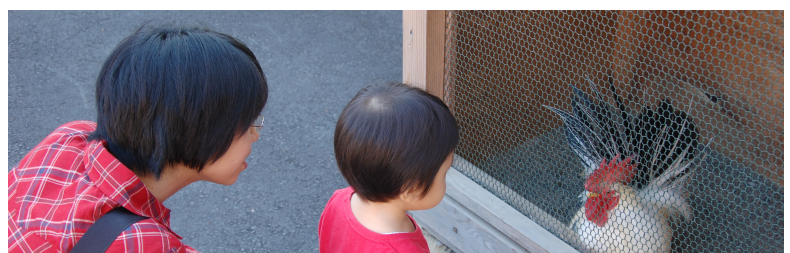
「その名はインマヌエルとよばれる。」

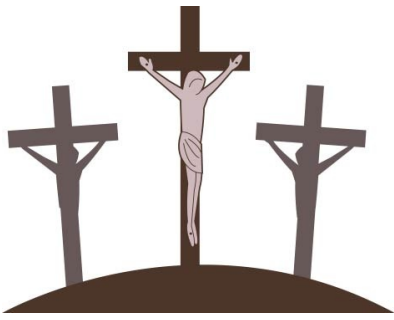
マタイの福音書1章23節

みなさん。こんにちは。結城福音キリスト教会の牧師をしています飯田勝利です。2011年10月に結婚と同時に結城に引っ越して来て以来、4回目のクリスマスを迎えようとしています。この間に娘が生まれ、先月、2歳の誕生日を祝いました。

この3年間のことを思い返すといろいろな変化がありました。例えば、引っ越して来た頃は、家のすぐそばを通る電車の音に慣れてなくて大変でした。しかし、娘が生まれると、驚いたことに娘は電車よりももっと大きい音でけたたましく泣くのです！それでいつの間にか、電車の音が気にならなくなっていました。電車の騒音には慣れるしかないとあきらめていましたが、いったい何が問題を解決するのか、本当にわかりませんね。

最近、娘は言葉でいろいろなことを表現できるようになりました。例えば、「ママいっちょ」とか「パパいっちょ」と言って、親と一緒にいる喜びを表現できるようになりました。





ですね。ちなみに「タウ」というのは、Tに該当するギリシャ文字の呼び名。変わったところでは「アンデレ十字架」というのがあります。x印の十字架なのですが、使徒アンデレがこのような十字架にかけられて殉教したという伝承から、その名をとって呼ばれています。さらに、あのナチスの旗として使われた「鉤十字」（ハーケンクロイツ）というものもありますが、あの旗が翻るおぞましい光景は二度と見たくないですね。

さて、先ほども少しふれましたが、「十字架」はもともとは処刑の道具でした。処刑される者の苦しみをできるだけ長引かせようとして考案された残酷な処刑道具で、ローマ帝国では、国家に対する反逆者などの凶悪犯罪人と奴隷にしか適用されなかったということです。そんな死刑の道具をキリスト教はなぜそのシンボルマークにしているのでしょうか。それはまさにこの十字架に神の義と愛が現されていると信じるからなのです。

今から約二千年前、エルサレムのゴルゴタという丘で神の子イエスが十字架にかけられ、いのちを捨てられました。それは、神の御前で全ての人の罪を負い、全ての人の身代わりとなって、罪のさばきを受けるためでした。このイエス・キリストの十字架での死によって私たちは罪赦され、神に受け入れられるものとされたのです。神はその愛する子イエス・キリストを十字架の死に渡してまで、私たちを罪と死と滅びから救い出さずにはおられなかったのです。この神のきわみない愛の現れ—それがイエスの十字架なんですね。だから十字架はキリスト教のシンボルという訳なのです。

ところで、結城福音キリスト教会にも十字架が掲げられていますが、どのような形でしょうか。このクリスマスシーズンに一度訪ねてみて、確かめてみませんか。(K.K)

ところで、子供がその親と「一緒にいる」ということは、電車で隣に座る見知らぬ人と「一緒にいる」ということとは違いますね。電車でたまたま席を同じくした見知らぬ人とは何の関係もありません。しかし、親と一緒にいる子供は、一緒にいることに先立って、親子の関係が結ばれています。つまり、生まれてくる子供は、初めから両親との親子関係の中であって生まれてくるのです。その親子関係は、子供から見れば一方的に成立しているのですが、その親子関係に基づいて、親子の交わり、すなわち「一緒にいる」ことは成り立っています。そして、親と「一緒にいる」ことは、子供に安心感をもたらします。

冒頭の聖書のことば「インマヌエル」は「**神は私たちとともに**におられる」という意味の言葉です。神様は私たちと一緒にいてくださる方です。しかし、その交わりに先立って、神様が人との間に一方的に結んでくださった関係があるのです。

けれども、人は神様との関係を、存在においては否定できませんが、心の中では否定して、神様との交わりを頑に拒んでいます。これが聖書が教える「罪」です。これは子供が生みの親との関係を、自分の存在においては否定できなくても、心の中では親を親とも思わないで否定し、親との交わりを頑に拒否することがあり得ることにたとえられます。

人はこの「罪」に捕われています。しかし、人が神様に「罪」を犯していることを悔い改め、神様との関係を新たに結び直される時、「罪」から解放されます。その際に必要な神様に対する罪の裁きと償いは、神の御子イエス・キリストが人に代わって裁かれ、神の御子としてのいのちを差し出してくださったことにより、既に完全に果たされています。十字架はそのしるしです。それで人がイエス・キリストを救い主と信じて神様に立ち返る時、神様はその人を「私の子よ」と呼んで受け入れ、一緒にいてくださるのです。「パパいっちょ」という言葉を聞く時、私もまた神様が「一緒にいる」幸いを感謝しています。

【教会からのお知らせ】

- ◇ 「ぴよぴよ会」 12/12(金) AM10:00~12:00
0歳児から未就園児までのお子さんと保護者の集いです。
- ◇ 「クリスマス礼拝」 12/21(日)AM10:30~12:00
礼拝は毎週日曜日午前にあります。誰でも参加できます。
- ◇ 「クリスマス・キャンドル礼拝」
12/24(水) 午後7:30~8:30
讃美歌を歌い、祈りに心を合わせ、心静かに聖書のことばに耳を傾けるひとときを教会ですごしませんか。駐車場あります。